

アメリカ議会図書館所蔵の日本軍将校による 1880 年代の外邦測量原図

Original maps concerning East Asian countries drawn by Japanese army officers during 1880s

in the Library of Congress, Washington DC

山近久美子 (防衛大)・渡辺理絵 (筑波大・日本学術振興会)

Kumiko YAMACHIKA (National Defense Academy) and Rie WATANABE (JSPS Fellow, Tsukuba University)

アメリカ議会図書館には、旧日本軍の作製とされる地図や空中写真が数多く所蔵されていることが報告されている(今里・久武 2003, 今里・長澤・久武 2004)。筆者らは、2008 年 3 月 2~10 日までアメリカ議会図書館において、旧日本軍作製の地形図類に焦点をあて、その所蔵状況の調査を行った。その結果、これまで報告されていない資料群の発見に至った。本発表は、その概要について報告することを目的とする。

1. アメリカ議会図書館所蔵の旧日本軍将校による手書き地図とその一覧

調査は、アメリカ議会図書館の The Geography and Map Division で行った。事前に当館の Web ページから調査すべき地図のリストを抽出していた (URL : <http://memory.loc.gov/ammem/gmdhtml/gmdhome.html>) が、現地では筆者らの調査すべき地図の概要を司書に伝え、それに合致する目録カードを調査することから始めた。この過程で、1880 年代に日本軍将校によって作製された、中国や台湾の諸地域に関する手書きの地図があることに気づいた。今回はそれらのうち 39 点を調査し、写真におさめた。末尾の目録 (表 1) は、これらの書誌情報を整理したものである。調査した地図は 1882 (明治 15) 年~1888 (同 21) 年までに作製されたもので、作製者は陸軍の砲兵大尉や歩兵中尉など旧日本軍将校らである。陸地測量部が発足したのは 1888 (明治 21) 年であり、これらの地図は陸地測量部発足以前につくられたものとして注目される。

今回調査した地図の図示範囲は、おもに中国沿岸部に分布する。北は黒竜江省から南は海南島に近い広東省の海安までの各地である。地図の主題はこれまで調査したところでは、2 つに分けられる。海岸線に沿ってのびる道路を中心に描いたルートマップと主要都市の中心部をおさめた地図である。前者は、No.1~3 の小澤徳平による地図や No.34~37 の地図が、後者には No.4~33 までの田中・倉辻・酒匂による地図があてはまる。なお、このほかにまだ未調査の図がかなりあり、その中には朝鮮半島のものも含まれている。

作製者の氏名からみて、これらの図は高木 (1961:

9-11, 25) が「韓国二十万分一図」さらに「旧清国二十万分一図」の原図となったとする「旅行図」と考えられる。高木の示す「旅行図」の提出時期および将校の氏名と (表 2) と今回調査した図の年代 (表 1) は部分的に一致し、高木がこれらの図を見た可能性をうかがわせる。

表 2 : 高木 (1961) の示す「旅行図」の提出時期

地域	時期	氏名
朝鮮半島	1883	磯林真三・梅(海)津三雄・酒匂景信
	1884	岡泰郷
	1885	梅(海)津三雄・三浦自孝・石門(川?)潔太・柴山尚則・岡泰郷
	1886	渡辺鉄太郎
清国	1880	益満邦介・山根武亮
	1881	山根武亮・柴山尚則・酒匂景信・丸子方
	1882	小島正保・福島安正・田中謙介・花坂円
	1883	玉井隴虎
	1884	倉辻靖二(次)郎・斉藤幹・島村千雄・小田信太郎
	1887	小沢徳平

またこれらの将校の多くは、村上 (1994) が示す「清国駐在参謀将校一覧」、「朝鮮駐在及派遣参謀将校一覧」にも登場し、軍事密偵として活動したと考えてよいであろう。

2. 日本軍将校による地図作製の背景

この時期の日本軍将校の地図作製については、村上 (1994)、さらに南 (1996) 以外ではほとんど検討されておらず、以下清国における活動を中心に、『参謀本部歴史草案』によりその背景を概観する。

1871 (明治 4) 年 7 月に兵部省内に参謀局が設置され、その任務は機務密謀に参画し、地図政誌を編纂するとともに間諜通報を管掌するとされた。1873 年 (明治 6) に参謀組織の第六局が設立され、局長の任は、上記と同様に、機務密謀に参画し、平時は地理政誌を詳らかにし、戦時は図を案じ部署を定め路程の限り戦略を区画するものとされた。また軍事偵察の目的で陸軍将校が清国地方に差遣された。翌 1874 年には第六局を廃止して陸軍省外局として参謀局が設置された。

1875 (明治 8) 年になると、陸軍卿より各国公使館派遣の参謀将校及び他邦駐在の者に外国の景況報告の

布達が出された。さらに1879（明治12）年6月16日管西局長は、清国朝鮮沿岸の地誌並に地図を詳らかにし、有事の日に当てその参画の図略に供するは目下緊急の用務とし、その為有為の将校若干名を清国に差遣することとした。「清国派出将校兵略上偵察心得」では、清国の軍制兵力を知り、交戦すべき地と方畧を選定することや、適合する地形と戦畧を検討することを指示している。

1881（明治14）年4月の「参謀本部編纂課服務概則」は、その職掌として本邦並びに外邦の政誌地理に関するものの類纂彙輯であり、実地視察のため派遣の者又は各国公使館附の将校より報告する所を記録すること、述べている。

さらに1883（明治16）年12月21日、管西局長は隣邦偵察の第一要務にして至難なるは地図の編製なりとして下記のように参謀本部長へ具申した。とくに中国の場合、欧州人の実測図は沿海部にかぎられ、必要な地図をえるには現場での測繪が必要であるが、外交嫌疑が多く、めだつかたちでは実測ができず、さまざま方法によらざるをえない。また範囲も広大で、一定の法式の画定が必要とした。

地図作製は初期より重視され、海外に関しても早くから試みられて、徐々にその組織化が進行した時期に当たる。在外公館附の将校にくわえ、情報収集を目的とした将校の派遣もおこなわれていた。

4. 地図作製者の経歴

つぎに、表1に登場する陸軍将校の経歴を紹介する。

○田中謙介：1879年（明治12）福州駐在。1880（明治13）年7月18日 厦門、泉州府安溪縣同安縣長秦縣漳浦府などを遊歴8月6日厦門に帰着。同11月10日在福州歩兵少尉として、本年定期旅行日数の中を以て福州を發し、興化府、福州城を経歴し景況を報告するよう命じられる。

○島村（干雄）：1879年（明治12）歩兵少尉として広東駐在を命じられる。

○伊集院兼雄：1879年（明治12）7月19日清国差遣。1880年（明治13）2月24日[工兵中尉]、天津を發し、牛莊に駐在し、海城、復州、金州、大連灣の景況を審らかにし該地の物産は、灣の広さなどを巨細に探偵し、旅順城に至り牛莊に帰り、総て経過した地の見取図並びに報告書を内訓に基づき至急当本部に送呈するよう命じられる。5月4日牛莊に達し、5月31日より定期旅行を実施。9月21日營口を發し、盛京新民屯白旗廣

寧、十三山、營口に帰る、また營口を發し遼揚、鳳凰門、奉天府、遼河に沿い營口に帰るよう命じられる。

1881（明治14）年10月28日[工兵大尉]、帰国を命じられる。1882（明治15）年8月8日、清国へ差遣。1883

（明治16）年12月13日、清国漢口駐在を命じられる。

1886（明治19）年3月20日帰国を命じられる。

○齊藤幹：1880年（明治13）2月20日清国北京に差遣し、該地方の物資の調査並びに諸給養法の研究。

○酒匂景信：1880（明治13）年10月6日陸軍砲兵少尉として清国北京へ差遣。1883（明治16）年8月8日在牛莊中尉として嘆願書。明治16年9月3日朝鮮内地旅行願提出。

○小田新太郎：1882（明治15）年7月24日 工兵中尉として清国（鎮江）へ差遣。

○倉辻靖次郎：1882年（明治15）工兵中尉。1883（明治16）年1月9日 牛莊を發し、廣寧、清河門、白土廠門彰武臺門法庫、伊通門、船城、寧古塔、瑚口哈河に沿い北上、三姓、黒龍江の上流に沿い、呼蘭河、阿爾口哈口林、寛城子、八家子、榆城、開原、法庫門、鐵峰、奉天府、牛莊へ戻るよう命じられる。（倉辻なるものは何人たるか不明なり、休職工兵中佐の倉辻明俊の旧名は倉辻靖次郎なりの付箋あり）

○小澤崧郎：1884（明治17）年1月7日工兵少尉として清国福州へ派遣發令。1886（明治19）年3月20日香港駐在より帰国を命じられる。

○小澤徳平：1885（明治18）年7月28日清国福建省福州へ派遣發令。

5. 地図作製活動

このような将校が、どのように現場で測量をおこなったかについては不明な点が多いが、東京地学協会報告に掲載された鴨緑江沿岸に関する梶山鼎介の報告と地図（梶山1883）は、その具体的な様相について、示唆を与えてくれる。時期は1882（明治15）年9月4日～20日で、ルートは盛京（現瀋陽）にはじまり遼陽をへて鳳凰、さらに鴨緑江の河口にいたるもので、交通条件や集落につき記載する。測量の方法について言及がないが、付載地図からすると磁石により方位をみながら歩測によって距離を測ったものと思われる。

なお付載図は、小さな文字から判断すると、大幅に縮小されており、約30万分の1と推定される。原図は、表1に見られるような、10万分の1程度のものであったと考えてよいであろう。通過したルートの両側の地形を、等高線（ただし目測によると思われる）で示し

ている。また途中、やはり陸軍将校と思われる伊集院（蕉（兼？）雄？）を一時期ともなっていた。

ところで、このような紀行文と地図が、会員制であったとはいえ、雑誌に掲載されたことについては、注目しておく必要がある。東京地学協会報告には、かならず地図をとまなうというわけではないが、おもに朝鮮半島で活躍した海津三雄の報告がしばしば登場する（海津 1880; 1884a,b）。これらについては、イギリスの Royal Geographical Society にならって設立されたという東京地学協会の性格からして（石田 1984）、軍事的な報告というより、探検記に類する報告と考えられていたとみてよいであろう。なお、秘密測量による調査成果が地理学雑誌に公表された例は、とくに同時期のチベットについてよく知られている（薬師 2006: 125-197）。

6. 手書き原図の利用

以上のような手書き原図（「旅行図」）のうち朝鮮半島に関するものは、さらに実測をくわえ、地図課の技手と製図選任の将校などにより、1894（明治 27）年に「韓国二十万分一図」として完成されたという（高木 1961: 9）。これはおそらく、日清戦争の開戦をつよく意識したものであろう。ただしその軍事的利用は短期で終了したと思われ、1900（明治 33）年には、秘密を解除されている（アジア歴史資料センター資料：C06083366800）。当時すでに第一次臨時測図部の活動

により、大縮尺の地形図が整備されつつあったのである。

参考文献

- 石田龍次郎 1984. 『日本における近代地理学の成立』大明堂。
 今里悟之・久武哲也 2003. 在アメリカ外邦図の所蔵状況：議会図書館・AGS Golda Meir 図書館・ハワイ大学ハミルトン図書館の調査から。外邦図研究ニューズレター1, pp.33-36。
 今里悟之・長澤良太・久武哲也 2004. アメリカ議会図書館所蔵の旧日本軍撮影・中国空中写真の概況。外邦図研究ニューズレター2, pp.78-80。
 海津三雄 1880. 元山津之記。東京地学協会報告 1(9): 1-8。
 海津三雄 1884a. 朝鮮北部内地の実況（義州行記）。東京地学協会報告 6(2): 3-41。
 海津三雄 1884b. 朝鮮北部内地の実況（慶興紀行）。東京地学協会報告 6(3): 11-29。
 梶山鼎介 1883. 鴨緑江紀行。東京地学協会報告 5(1): 3-45。
 高木菊三郎 1961. 『明治以後日本が作った東亜地図の科学的妥当性』高木菊三郎。
 南榮佑 1996. 『舊韓末韓半島地形圖』解題。成地文化社。
 防衛省防衛研究所図書館所蔵『参謀本部歴史草案』1~7、近代未完史料叢書、ゆまに書房、2001 復刻。
 村上勝彦 1994. 解説 隣邦軍事密偵と兵要地誌。陸軍参謀本部編『朝鮮地誌略 1』竜溪書舎、3-41。
 薬師善美 2006. 『大ヒマラヤ探検史：インド測量局とその密偵たち』白水社。

第1表 アメリカ議会図書館における明治期初頭の地図一覧（2008年3月現在）

No.	図群に付与された連番号	題名	サイズ(縦×横)	年代	縮尺	地域	作製者	裏書き	その他
1	1	仁化縣・英德縣・花縣・清遠縣・桂陽縣	48.1 × 58.2	明治21(1888)年5月	1万	広東・湖南	陸軍歩兵中尉小澤徳平	第六十号附図七枚之内第一 広東英德縣 仁化縣 同清遠縣 同花縣 湖南桂陽縣 局地図	
2	3	衡州府・長沙府	85.3 × 47.8	明治21(1888)年5月	1万	湖南	陸軍歩兵中尉小澤徳平	第六十号附図 七枚之内第三 湖南衡州府・長沙府局地図	水域を青・町をピンク・城壁も示す
3	4	九江府・韶州府・安慶府	58.3 × 47.8	明治21(1888)年5月	1万	広東・江西・安徽	陸軍歩兵中尉小澤徳平	第六十号附図 七枚之内第四 江西南昌府・九江府・安徽安慶府 沙府	水域を青・都市をピンク
4	一連	永春州泉州府各地	67.5 × 147.8	明治15(1882)年5月	20万	福建	歩兵中尉 田中謙介	第七十号永春州泉州府各地 共三枚第三号棚	主要地点を結ぶルートのみ記述
5		(永春州城・漳州府海澄縣管石島(石が左側につく)・泉州府同安縣城・泉州府南安縣城・漳州府城・泉州府管德化縣城)	67 × 98	(明治15年5月)	5千	福建	歩兵中尉 田中謙介	なし	一紙上で5区画に分割して描写 凡例あり
6		(泉州府城)	55.5 × 68	(明治15年5月)		福建	歩兵中尉 田中謙介	なし	
7	1	従(没)溝營至大窪路上図	60.5 × 97.7	188?	10万	吉林・遼寧	倉辻靖二郎	營口 第二号棚 共拾五枚1 従營口至? 古塔城路上図 九拾五号 工兵中尉 倉辻靖二郎製	作成年は、図中になし。左は目録カードに記載
8	2	従大窪至樹林子路上図	60.8 × 99.4	188?	(10万)	吉林・遼寧	倉辻靖二郎	双台子 第二号棚 共拾五枚2 従營口至? 古塔城路上図 九拾五号 工兵中尉 倉辻靖二郎製	縮尺・作成年は、図中になし。左は目録カードに記載
9	3	廣? 義為及諸河邊門一帶之路上図	60.8 × 97.8	188?	(10万)	吉林・遼寧	倉辻靖二郎	廣? 縣義州 第二号棚 共拾五枚3 従營口至? 古塔城路上図 九拾五号 工兵中尉 倉辻靖二郎製	縮尺・作成年は、図中になし。左は目録カードに記載
10	4	従魏土宮至八大王廟路之図	60.6 × 98.5	188?	(10万)	吉林・遼寧	倉辻靖二郎	王爺府 第二号棚 共拾五枚4 従營口至? 古塔城路上図 九拾五号 工兵中尉 倉辻靖二郎製	縮尺・作成年は、図中になし。左は目録カードに記載
11	5	至八大王廟至陳家? 舖路上図	60.3 × 94.2	188?	(10万)	吉林・遼寧	倉辻靖二郎	王爺府 第二号棚 共拾五枚5 従營口至? 古塔城路上図 九拾五号 工兵中尉 倉辻靖二郎製	縮尺・作成年は、図中になし。左は目録カードに記載

12	6	從陳家? 舖■法庫辺門至■上路上図	60.9×86.3	188?	(10万)	吉林・遼寧	倉辻靖二郎	法庫門 第二号棚 共拾五枚6 從營口至? 古塔城路上図 九拾五号 工兵中尉 倉辻靖二郎製	縮尺・作成年は、図中になし。左は目録カードに記載	G7824. Y45. A1. S100. K8 Vault	
13	7	從■至上八面城路上図	60.7×49.5	188?	(10万)	吉林・遼寧	倉辻靖二郎	八面城 第二号棚 共拾五枚7 從營口至? 古塔城路上図 九拾五号 工兵中尉 倉辻靖二郎製	縮尺・作成年は、図中になし。左は目録カードに記載		
14	8	奉化縣一帶地方之路上図第八	60.6×46.4	188?	(10万)	吉林・遼寧	倉辻靖二郎	奉化縣 第二号棚 共拾五枚8 從營口至? 古塔城路上図 九拾五号 工兵中尉 倉辻靖二郎製	縮尺・作成年は、図中になし。左は目録カードに記載		
15	9	赫原伊通為及伊通河門一帶地方之路上図	60.5×98	188?	(10万)	吉林・遼寧	倉辻靖二郎	伊通州朝陽堡 第二号棚 共拾五枚9 從營口至? 古塔城路上図 九拾五号 工兵中尉 倉辻靖二郎製	縮尺・作成年は、図中になし。左は目録カードに記載		
16	10	長春廳及懷德縣一帶地方之路上図	60.5×98.5	188?	(10万)	吉林・遼寧	倉辻靖二郎	長春廳懷德縣 第二号棚 共拾五枚10 從營口至? 塔城路上図 九拾五号 工兵中尉 倉辻靖二郎製	縮尺・作成年は、図中になし。左は目録カードに記載		
17	11	從丁家大橋至吉林省城路上図	60.5×97.5	188?	(10万)	吉林・遼寧	倉辻靖二郎	吉林城 第二号棚 共拾五枚11 從營口至? 塔城路上図 九拾五号 工兵中尉 倉辻靖二郎製	縮尺・作成年は、図中になし。左は目録カードに記載		
18	12	從松? 里江口至牙門口路上図	60×96.5	188?	(10万)	吉林・遼寧	倉辻靖二郎	第二号棚 共拾五枚12 從營口至? 塔城路上図 九拾五号 工兵中尉 倉辻靖二郎製	縮尺・作成年は、図中になし。左は目録カードに記載。他の図の裏書きにある地名はなし。		
19	13	從牙門口至沃家口路上図	60.5×99.5	188?	(10万)	吉林・遼寧	倉辻靖二郎	大比 第二号棚 共拾五枚13 從營口至? 塔城路上図 九拾五号 工兵中尉 倉辻靖二郎製	縮尺・作成年は、図中になし。左は目録カードに記載		
20	14	從沃家口至道嶺路上図	60×98	188?	(10万)	吉林・遼寧	倉辻靖二郎	額務策站 第二号棚 共拾五枚14 從營口至? 塔城路上図 九拾五号 工兵中尉 倉辻靖二郎製	縮尺・作成年は、図中になし。左は目録カードに記載		
21	15	從三道嶺至? 古塔城路上図	60.7×98.3	188?	(10万)	吉林・遼寧	倉辻靖二郎	? 古塔城第二号棚 共拾五枚15 從營口至? 塔城路上図 九拾五号 工兵中尉 倉辻靖二郎製	縮尺・作成年は、図中になし。左は目録カードに記載		
22	1	自廣東省惠州府海■縣東至同潮州府治道路図	67.0×100.4	(明治17年3月14日)	10万	廣東	嶋村	第六十七号 明治十七年三月十四日 廣東省 從潮州府至簾州府 七枚の内一 第五号棚 嶋村中尉製			G7824. C455. A1. 1884. S5 Vault
23	2	自廣東省惠州府博羅縣東至同海■縣治道路図	68×101	(明治17年3月14日)	10万	廣東	嶋村	第六十七号 明治十七年三月十四日 廣東省 從潮州府至簾州府 七枚の内二 第五号棚 嶋村中尉製			
24	3	自廣東省廣州府西至肇慶府高明縣東至同惠州府博羅縣治道路図	北52.9×68.8 南48.8×67.9	(明治17年3月14日)	10万	廣東	嶋村	第六十七号 明治十七年三月十四日 廣東省 從潮州府至簾州府 七枚の内三 第五号棚 嶋村中尉製	一枚であったものが二枚に分断されている		
25	4	自廣東省肇慶府高明縣西至同陽春縣治道路図	99.5×67	(明治17年3月14日)	10万	廣東	嶋村	第六十七号 明治十七年三月十四日 廣東省 從潮州府至簾州府 七枚の内四 第五号棚 嶋村中尉製	後筆でINDEXMAPあり		
26	5	自廣東省肇慶(欠損)同高州府化州治道路図	北51.2×68.2 南50.8×68	(明治17年3月14日)	10万	廣東	嶋村	第六十七号 明治十七年三月十四日 廣東省 從潮州府至簾州府 七枚の内五 第五号棚 嶋村中尉製	一枚であったものが二枚に分断されている		
27	6	自廣東省高州府化州西至同廣州府治道路図	67×99	(明治17年3月14日)	10万	廣東	嶋村	第六十七号 明治十七年三月十四日 廣東省 從潮州府至簾州府 七枚の内六 第五号棚 嶋村中尉製			
28	7	自廣東省高州府南經雷州府至■州府治道路図	99.5×67.5	(明治17年3月14日)	10万	廣東	嶋村	第六十七号 明治十七年三月十四日 廣東省 從潮州府至簾州府 七枚の内七 第五号棚 嶋村中尉製			
29	1	満州東部之図第一	西77×59.7 南76.5×60	明治17(1884)年6月	10万	満州	砲兵大尉 酒匂景信	海龍城 柳河鎮 山城子? 嘶河路七十四号の巻 満州東部旅行図 明治十六年 酒匂景信 巻号棚共五枚	一枚であったものが二枚に分断されている。多彩色		
30	2	満州東部之図第貳	2-1 78×59.5 2-2 78.2×59 2-3 78×59 2-4 77.8×59 2-5 78×59	明治17(1884)年6月	10万	満州	砲兵大尉 酒匂景信	通化縣 江清門 新兵堡 東京城 頂山 葦子客 撫順城 奉天府 遼陽城 七十四号の式 満州東部旅行図 明治十六年 酒匂景信 巻号棚共五枚	一枚であったものが五枚に分断されている		G7831.p2 1884.s3 Vault (2)
31	3	満州東部之図第參	3-1 78.8×68.8 3-2 78×70.2 3-3 78×70 3-4 78×70 3-5 77.9×69.8 3-6 77.6×69.9	明治17(1884)年6月	10万	満州	砲兵大尉 酒匂景信	百十九度五十分ヨリ 今安城 壤仁城 域廠 ■陽辺門 撤馬集 海城縣 朱莊古城 營子 七十四号の三 満州東部旅行図 明治十六年 酒匂景信 巻号棚共五枚	一枚であったものが六枚に分断されている	G7831.p2 1884.s3 Vault (3)	
32	4	満州東部之図第四	4-1 78×60.6 4-2 77.8×61 21.2×21.3 4-3 78.2×60.8 21.3 ×28 4-4 78× 60.7 4-5 78× 60.7 4-6 77.8 ×59.2	明治17(1884)年6月	10万	満州	砲兵大尉 酒匂景信	百十九度五十分ヨリ第三 四十度三十五分ヨリ 賓州縣 永固縣 長甸縣 安東縣 鳳凰縣 龍王■ 岫巖城 蓋州城 七十四号の四 満州東部旅行図 明治十六年 酒匂景信 巻号棚共五枚	一枚であったものが六枚に分断されている	G7831.p2 1884.s3 Vault (4)	
33	5	満州南郭之図	北50.2×66 南50×66	明治17(1884)年6月	10万	満州	砲兵大尉 酒匂景信	皮子竈 七十四号の五 満州東部旅行図 明治十六年 酒匂景信 巻号棚共五枚	この図は工兵中尉倉辻氏の金州旅順口に至るの図に接続すべきものなりとの注記あり	G7822 m2p21884.s3 Vault (5)	
34		漢口居留地全図	—	明治18(1885)年6月	4千	湖北	駐在清國漢口 伊集院 蕉雄 小田新太郎	なし	2分割	G7824.W8G46. 1885.14.Vault	
35		芝罘港全図	47.1×34.9	明治16(1883)5月	2万	山東	齊藤幹	なし	「山東海防練隊」廣東町記載あり。芝罘は現。	G7824.Y4P55.1 883.S3.Vault	
36		滬尾一名淡水港市街及兵備之図・台北府之図	58×48	明治21(1888)年5月	1万	台湾	陸軍歩兵中尉小澤徳平	第六号附図 七枚之図第六 台湾淡水港台北局地図 陸軍歩兵中尉 小澤徳平 棚九号	図中に「明治十七年佛清事件ノ時築造セル堡址」などの注記あり	G7914.TSP55.1 888. 09. Vault	
37		福州南台之図	95.5×144.0	明治17(1884)年7月	12万	福建	小澤裕郎	第九拾号 福州南台之図 第七号 工兵中尉小澤裕郎	図中の注記によれば他国の地図をトースした	G7824. F8. 1884. S3	

■は解説困難な文字を、また?は表示できない字を意味する。なお、朝鮮の地図一覧は省略。